

# 「事業名：飯舘村における農業再生と風評被害払拭のための教育研究プログラム」 2019年度補助事業の実績・成果

**東京大学 連携市町村：飯舘村**

**連携市町村との協定締結日：平成30年3月5日 現地拠点：福島県相馬郡飯舘村佐須滑87**

## 事業のポイント

飯舘村の農業復興には放射能汚染というハンデにめげずに新しい農業の創設にチャレンジする若者を育成することが必要である。学生を飯舘村現地に連れて行くことで「現場を見ることの重要性」を実感させる教育研究活動を展開し、教員とフィールド研究を行うことで大学の社会的価値と地域復興のあり方を考える機会を設ける。

## 今年度の活動実績

今年度の活動は大きく以下の2つのプログラムを主軸に行われた：(1)農業振興人材育成教育プログラム、(2)農業再生のための大学知を活かした研究プログラム。まず(1)については、現地における住民との交流や村内見学、ワークショップを含めるフィールドワークプログラムを年間を通して実施し、全国各地の延べ10の大学から大学生を招聘した。現地フィールドワークの内容としては、土壌博物館の見学や農業委員会の援助の基で行われた蕎麦畑における生育実習、現地農家の方のご協力により行った稲刈り体験、飯舘村復興に向けて重要なインフォーマントへのインタビュー調査、および現地農家の方と大学生のワークショップが含まれる。なお、本プログラムの行程は、Twitterの「#までい大学」で検索することで、追えるようになっている。また(2)については、飯舘村内の農地内の灌漑水路、河川等における放射性セシウムの挙動を調査し、村役場や村民と一緒に把握した。また、大雨後の河川水を数地点で採水し、水中の放射性セシウムについて、溶存態と懸濁態に分けて放射性セシウム濃度を解析した。さらに、大気浮遊物に含まれる生態系内の放射性セシウムに着目し、分布や特性などの実体を解明するとともに、農業再生上懸念される放射性粒子による植物汚染の実情を他汚染地域と比較しながら明らかにした。双方の結果は、各プログラムリーダーを通して共有され、フィードバックを得た後に、来年度以降の活動に反映される予定である。

## 今年度の成果

- ・これまで蓄積されてきた大学知を教育研究活動に展開し、学生を飯舘村の現地に連れて行くことで「現場を見ることの重要性」を実感させると共に、フィールドにおける経験を通して研究課題と地域復興のあり方を考えさせるFPBL(Field & Project-based Learning)を実施した。結果として、現地の農業委員会を始め、多様なステークホルダーと学生との交流が生まれ、またそれらの活動を通じた学生の体験が、飯舘村に限らず福島復興に対する深い興味関心を生んだことが明らかとなった。
- ・飯舘村村内の傾斜地からの放射性物質流出調査として、斜面下に流出物を受け取る装置を設置し、未除染エリアの一つである傾斜地から流出する放射性物質を測定し、どの程度傾斜地から放射性物質が流出するかを検討した。また、放牧地の放射性セシウム濃度調査を行った。表土剥ぎ取りを行った飯舘村内の除染後放牧地で、土壌表面の線量を簡易に測定できる機器を用いて、学生とともに放牧地内の線量分布を測定した。上記に加え、飯舘村住民から、震災後の混乱した状況や避難の様子、現在の復興状況について話を聞き、研究に資する知見をまとめた。



フィールド調査およびワークショップの様子



傾斜地からの放射性物質流出調査